



イスラエル・パレスチナ：増加する暴力事件

11月10日、イスラエルのテルアビブ南部にある鉄道の駅付近で、パレスチナ人が兵士から銃を奪おうとして兵士をナイフで刺す事件が発生した。刺された兵士は病院で死亡、犯人は逮捕された。西岸ナブルスに住む犯人の家族は、青年に政治活動歴はなく、仕事を探しにテルアビブに行ったと述べている。同事件後、今度は西岸のベツレヘム近郊アロンシャブーの入り口付近で、パレスチナ人が刃物でイスラエル人3人を襲撃した。入植者の女性1人が死亡し、男性2人が負傷した。犯人のパレスチナ人は、警備員に撃たれて負傷し、病院で死亡した。同犯人は、バスの停留所に車で突入しようとしていたとも報道されている。

2つの事件を、イスラエル側は「テロ」としているが、特定の組織からの犯行声明はまだ出ていない。

評価

西岸では、2013年頃から個人による暴力事件が増加していた。(中東かわら版「増加傾向にあるパレスチナ人のイスラエル人攻撃」(2013年12月26日 No.255) <http://www.mei.j.or.jp/members/kawaraban/20140106153621000000.pdf>)。

西岸では2014年以降も同じ傾向が続いており、最近東エルサレムで起きている車の暴走事件や今回のテルアビブ市内での兵士刺殺事件も、個人による犯行の可能性が高い。組織による暴力の行使は、一定の傾向や目標を推定できるが、個人が突然暴力を振るう事件は予想できず予防が難しい上に、日常生活の中で突然悲惨な事件が起きるためイスラエル人の不安の度合いはいっそう強まる。

10日のハアレツ紙は、合法的出稼ぎ労働者約5万人に加えて、西岸から非合法に入りこんだ不法労働者約2-3万人がイスラエル国内にいると指摘している。イスラエル国内でのパレスチナ人個人によるテロを防止するため、イスラエルへの出稼ぎ労働を規制することは可能かもしれないが、その場合、収入を断たれた西岸のパレスチナ人の間でイスラエルに対する別の怒りが増大することになる。

パレスチナ人個人による暴力の行使は、絶望の象徴である。パレスチナ人たちにとって期待が持てるような政治的な動きがない限り、個人レベルの暴力行使は続くだろう。

(中島主席研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799